

表6-2. (つづき)地域での活動についての意見

● 体制・活動上の問題について

- ・ 校区福祉協議会役員として各種活動に参加しているが見守り活動が手薄になっている現状。
 - ・ 自発的に活動参加できる人は様子を伺うことができるが一人暮らしで家にこもってる人は把握しにくい。
 - ・ サポートしてくれる人を見つけにくい。独居高齢者が多すぎる。
集合住宅の場合、1件だけは行きづらく緊急時以外行きづらい。
 - ・ 民生委員の見守り活動には限界があり、地域の自治会・老人会と連携体制を築きたい。
 - ・ 現在見守り活動は少なく理解されていないように思う。まず互いに知り合う場を作って親しくなれればと思う。
 - ・ 子供の見守りは沢山の人が組織的に行っているが、老人で介護を受けていない人のこれからが不安。
 - ・ 高齢者が多く、挨拶程度になりやすい。
 - ・ 信頼関係は築けているが若い人や中年層も取り込んで協力体制作りできたらと感じる。
 - ・ 地域住民に情報提供されて訪問しても本人に拒否されることが多く入り込めない。
 - ・ 見回り活動しているがプライバシーもあり難しい。
 - ・ 交流会に出でこない・一人で外出困難な場合、訪問でしか会わない人の見守りは難しい。
 - ・ あまり入り込まず・お世話することは難しい どこまで入っていいか悩む。
 - ・ 熱心すぎるとうっとおしいのではないと思う。プライバシーの壁が邪魔をする。
- 自身の年齢や健康。生活環境から見守り活動を深めることは困難。
- ・ 実状に即した見守り活動の地域間格差を縮める対策を行政がまず的確に実施し、上乘せ対策も重要と考える。
-

表6-3. (つづき)地域での活動についての意見

● 個人情報の問題について

- ・ 高齢者の実態把握には個人情報保護の壁が厚いと感じている。
- ・ 高齢者の実態把握が必要。個人情報の保護 困難な面があり悩む。
- ・ 住宅入居者の把握がしにくい。
行政の個人情報保護のためだが新入居者の実態がつかめず行政に申し入れしている。
- ・ 地域自治会役員に高齢者情報を与えては？

● 情報や知識取得について

- ・ 地域が団地のなかなので情報が入りにくい。
- ・ 十分な情報が行政からでないため、把握できていない。
見守りは個人では限界があるため、公的機関の体制作りを充実してほしい。
- ・ 努力はしているが情報が集まらない。
- ・ 担当地域が広く、賃貸住宅は出入りが多く、近所付き合いしない方があり、情報が不足。
- ・ 交流の場参加の高齢者の様子は把握できるが、以外の対象への対応を模索中。
プライバシーに関する事なので信用して話してもらえないようにないたい。
- ・ 行政機関関係部署からの情報提供について、民生委員・児童委員に対しての情報提供で硬直的になっており、機能していないように感じる。

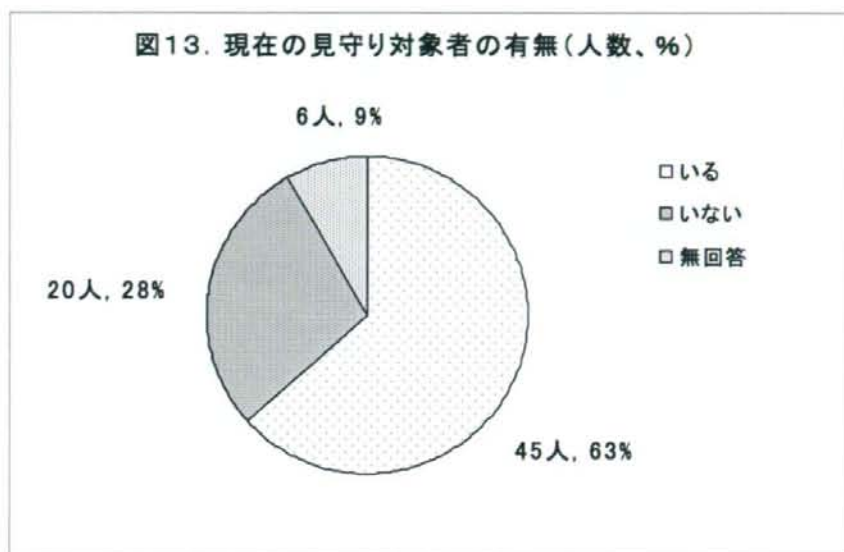
● 見守り活動の程度について

- ・ 今後高齢者が増えるので考えておく必要があるのでは？
-

5)見守り活動

(1)見守り活動の対象者の有無

現在見守り対象者の有無をみると(図13)、「いる」が45人(63%)で、「いない」が20人(28%)であった。



現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者を性別にみると(表7)、男性は22.2%、女性は77.8%と、女性の方が男性に比べ見守り対象のいる割合が多かった。

表7. 性別にみた見守り活動の対象者の有無

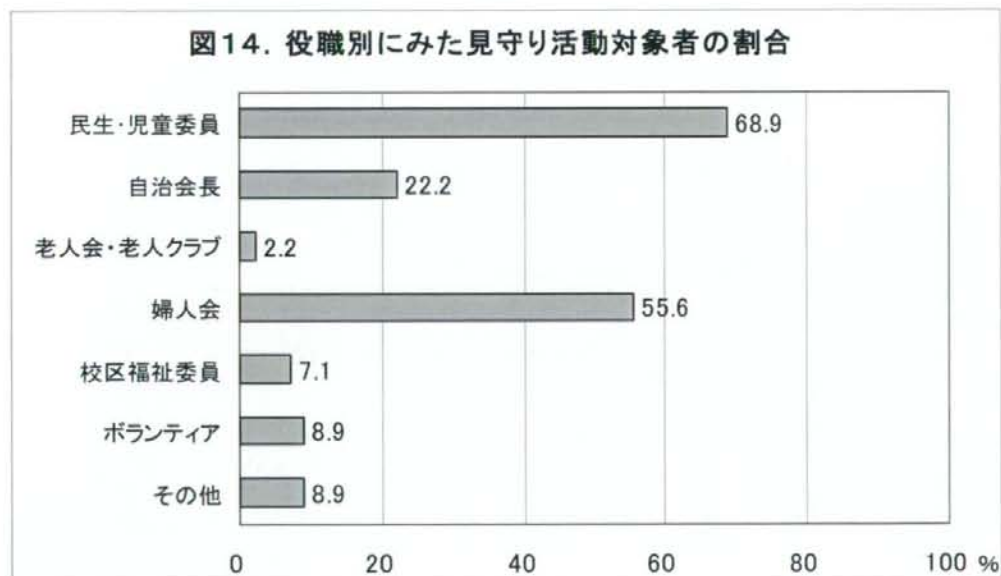
項目	男性			女性			合計	
	人数	性別%	項目別%	人数	性別%	項目別%	人数	項目別%
いる	10	55.6	22.2	35	66.0	77.8	45	63.4
いない	7	38.9	35.0	13	24.5	65.0	20	28.2
無回答	1	5.6	16.7	5	9.4	8.3	6	8.5
合計	18	100	25.4	53	100	74.6	71	100

現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者で、役職別みると（表8、図14）、民生・児童福祉委員が31人（68.9%）、老人会・老人クラブが1人（2.2%）と見守り対象者のいる割合が多かった。

表8. 役職別に見た見守り活動対象者の割合

役職名	人数	%
民生・児童委員	31	68.9
自治会長	10	22.2
老人会・老人クラブ	1	2.2
婦人会	25	55.6
校区福祉委員	7	7.1
ボランティア	4	8.9
その他	4	8.9
合計	45	100

図14. 役職別に見た見守り活動対象者の割合



(2)見守り活動の対象者

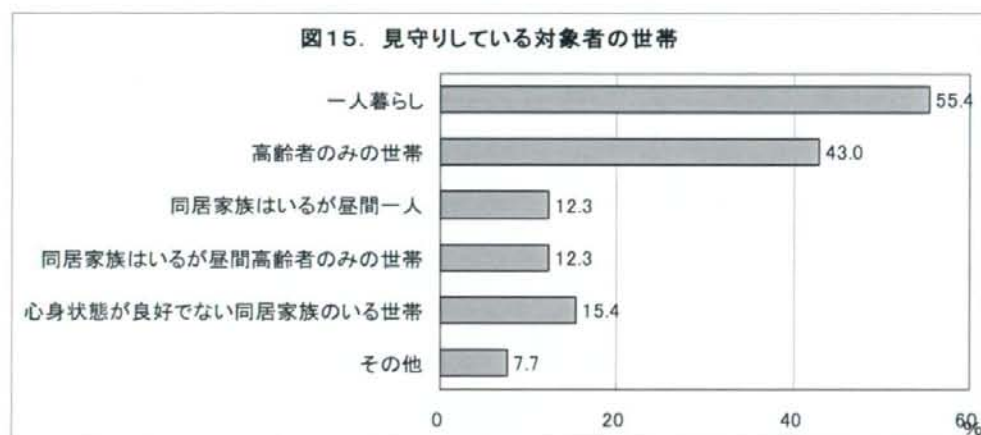
①世帯

見守り活動の対象者を世帯別にみると（表9、図15）、「一人暮らし」が36人（55.4%）、「高齢者のみの世帯」が28人（43.0%）と、独居・高齢者のみ世帯が主な見守り対象である。

表9. 見守りしている対象者の世帯(複数回答)

世帯項目	人数	%
一人暮らし	36	55.4
高齢者のみの世帯	28	43.0
同居家族はいるが昼間一人	8	12.3
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	8	12.3
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	10	15.4
その他	5	7.7

図15. 見守りしている対象者の世帯



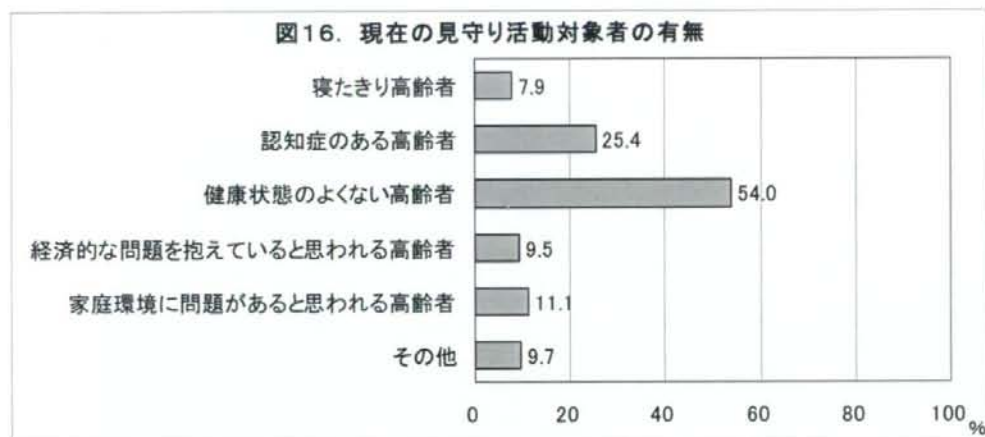
②状態

見守り活動の対象者を状態別にみると（表 10、図 16）、健康状態が主であるが、経済面・家庭環境の問題も捉えられている。

表10.現在の見守り活動対象者の有無(複数回答)

状態項目	人数	%
寝たきり高齢者	5	7.9
認知症のある高齢者	16	25.4
健康状態のよくない高齢者	34	54.0
経済的な問題を抱えていると思われる 高齢者	6	9.5
家庭環境に問題があると思われる高齢者	7	11.1
その他	6	9.7

図 16. 現在の見守り活動対象者の有無

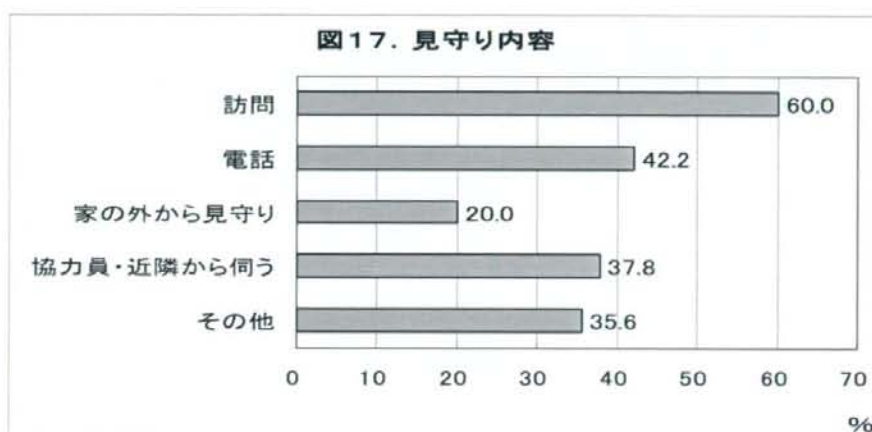


③内容

見守りの内容別にみると（表 11、図 17）、自らの訪問のみならず、近隣等と協同で行っている。

表 11. 見守り内容(複数回答)

	人数	%
訪問	27	60.0
電話	19	42.2
家の外から見守り	9	20.0
協力員・近隣から伺う	17	37.8
その他	16	35.6



(3)見守りしている人数と頻度

①人数

見守りしている人数は、5人以下が最も多かった（表 12）。

表 12. 見守り内容別にみた見守りしている人数(複数回答)

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
5人以下	20	74.1	14	73.7	8	88.9	11	64.7
6～10人	5	18.5	3	15.8			3	17.6
11～15人			1	5.3				
16～20人	1	3.7						
21～25人								
26～30人								
31人以上(～45人)							1	5.9
無回答	1	3.7	1	5.3	1	11.1	2	11.8
合計	27	100	19	100	9	100	17	100

②頻度

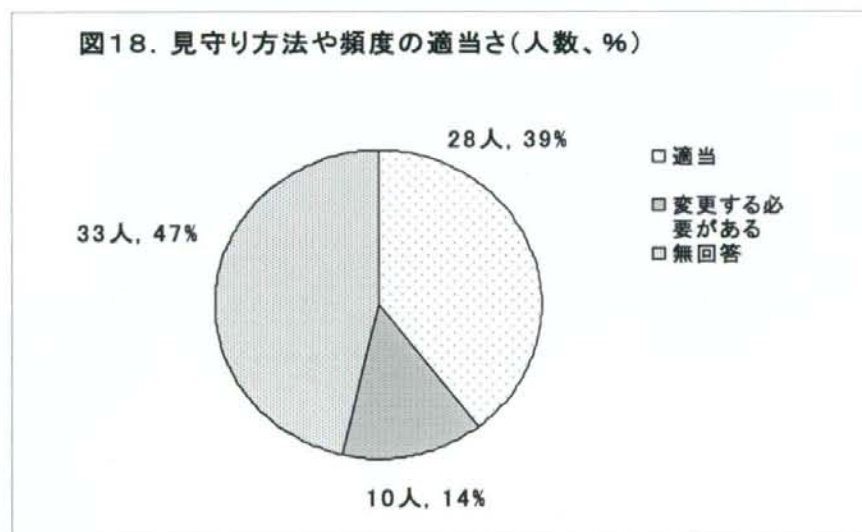
表13. 見守り内容別にみた見守り頻度(1回/日、複数回答)

見守り頻度 (1回/日)	訪問日		電話日		家の外から日		協力員・近所日	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
毎日	2	7.4	2	10.5			1	5.9
2~3日	2	7.4			1	11.1	1	5.9
4~7日	2	7.4	4	21.1	6	66.7	1	5.9
8~10日	1	3.7	2	10.5				
11~14日			1	5.3				
15~30日	15	55.6	6	31.6	2	22.2	7	41.2
約2ヶ月	2	7.4	1	5.3			3	17.6
約3ヶ月			1	5.3				
約半年								
その他	1	3.7					1	5.9
無回答	2	7.4	2	10.5			3	17.6
合計	27	100	19	100	9	100	17	100

(4)見守り方法や頻度適当さ

見守り方法や頻度の適当さについてみると(図18)、「適当」が28人(39%)、「変更する必要がある」が10人(14%)であった。

図18. 見守り方法や頻度の適当さ(人数、%)



(5)見守りにいったいきさつ

見守りに行ったいきさつ別にみると(表14、図19)、「本人からの相談」が21人(46.7%)、「近所のひとからの相談」が19人(42.2%)と多くみられた(表14)。

表14.見守りに行ったいきさつ(複数回答)

項目	人数	%
本人からの相談	21	46.7
同居家族からの相談	10	22.2
近所のひとからの相談	19	42.2
別居家族や親族等の相談	8	17.8
最近見かけなくなったなどの変化の気付き	3	6.7
地域ケア推進チーム会議の情報	13	28.9
ケアマネや専門職などから依頼	9	20.0
小地域ネットワークあんしんシステムから	10	22.2
一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から	17	37.8
その他	6	13.3



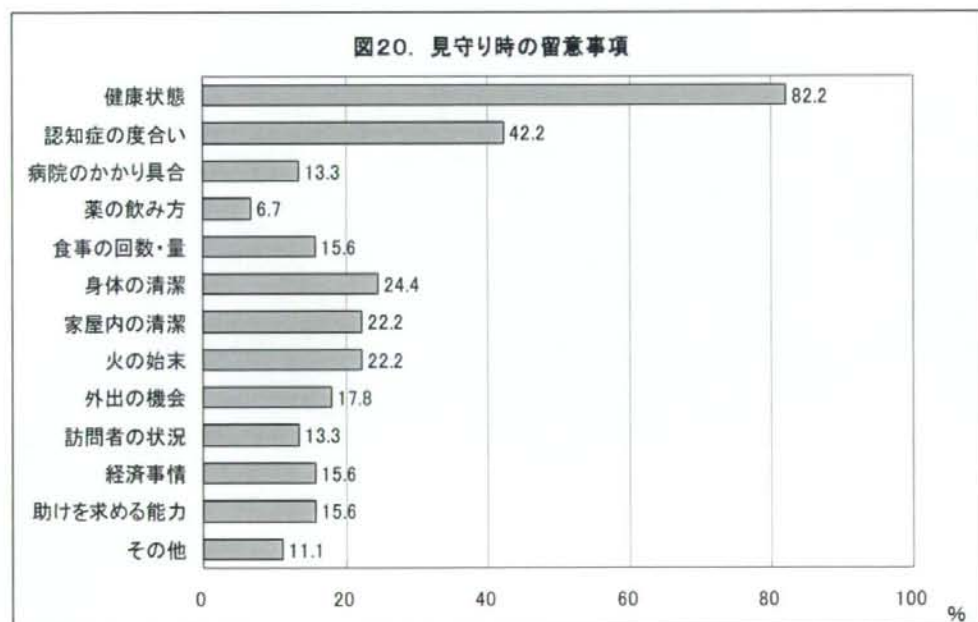
(6)見守りの際の留意事項

見守りの際に注意していることを項目別にみると(表15、図20)、「健康状態」が37人(82.2%)と高いが、多岐にわたり留意されている。

表15.見守りの際の留意事項(複数回答)

項目	人数	%
健康状態	37	82.2
認知症の度合い	19	42.2
病院のかかり具合	6	13.3
薬の飲み方	3	6.7
食事の回数・量	7	15.6
身体の清潔	11	24.4
家屋内の清潔	10	22.2
火の始末	10	22.2
外出の機会	8	17.8
訪問者の状況	6	13.3
経済事情	7	15.6
助けを求める能力	7	15.6
その他	5	11.1

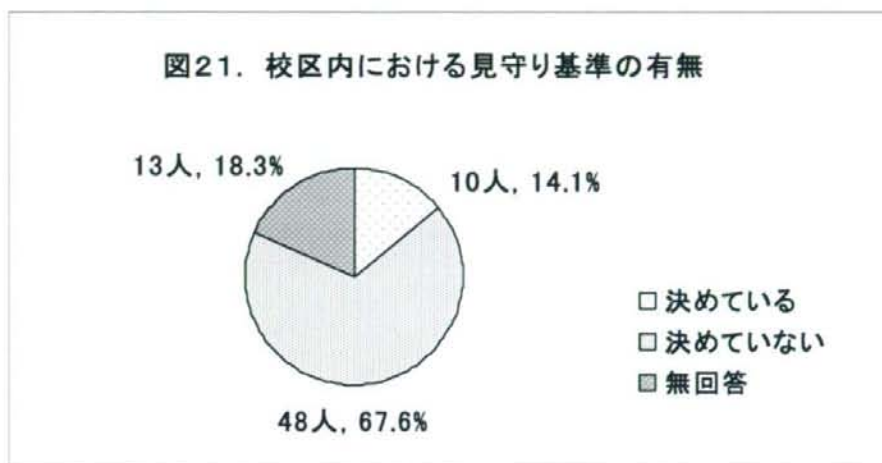
図20. 見守り時の留意事項



(7) 校区での見守り基準の有無とその内容

① 有無

校区内での見守り基準の有無をみると（図 21）、「決めている」が 10 人（14.1%）、「決めていない」が 48 人（67.6%）、無回答が 13 人（18.3%）であった。校区で見守り基準を決めているのではなく、それぞれが自分の基準で行っている割合が高かった。



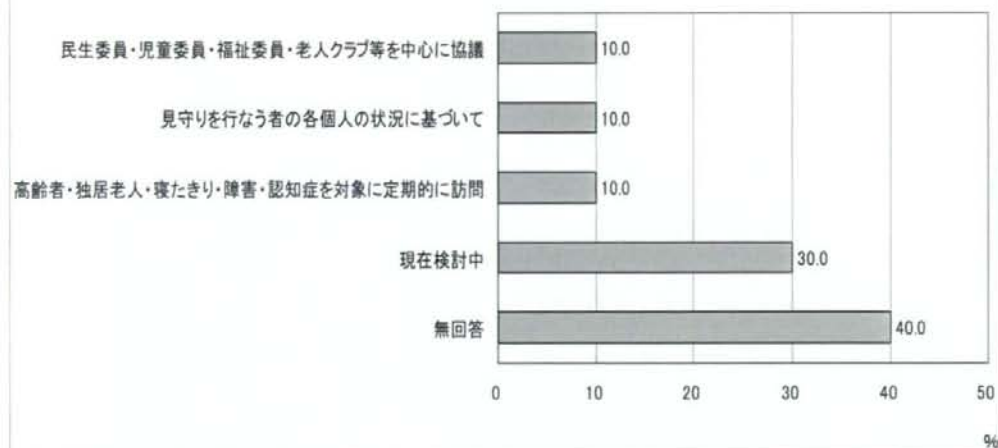
②内容

校区内における見守りの基準の有無で「決めている」と答えたもので、その具体的な内容は表16、図22のとおりである。

表16.校区内での見守りの具体的な基準

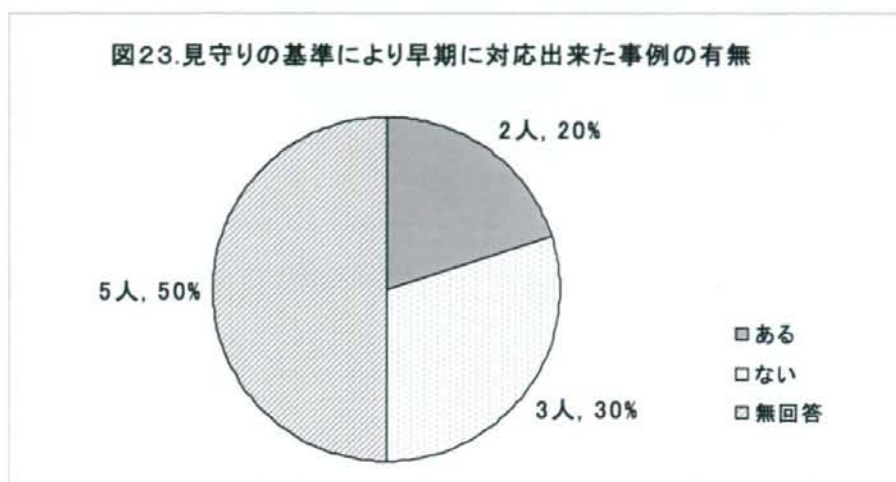
項目	人数	%
民生委員・児童委員・福祉委員・老人クラブ等を中心に協議	1	10.0
見守りを行なう者の各個人の状況に基づいて	1	10.0
高齢者・独居老人・寝たきり・障害・認知症を対象に定期的に訪問	1	10.0
現在検討中	3	30.0
無回答	4	40.0
合計	10	100

図22.見守り基準内容



③早期に対応できた事例の有無

校区内における見守りの基準の有無で「決めている」と答えたもので、見守りの基準により早期に対応出来た事例の有無をみると（図 23）、「ある」が 2 人（20%）、「ない」が 3 人（30%）、無回答が 5 人（50%）であった。



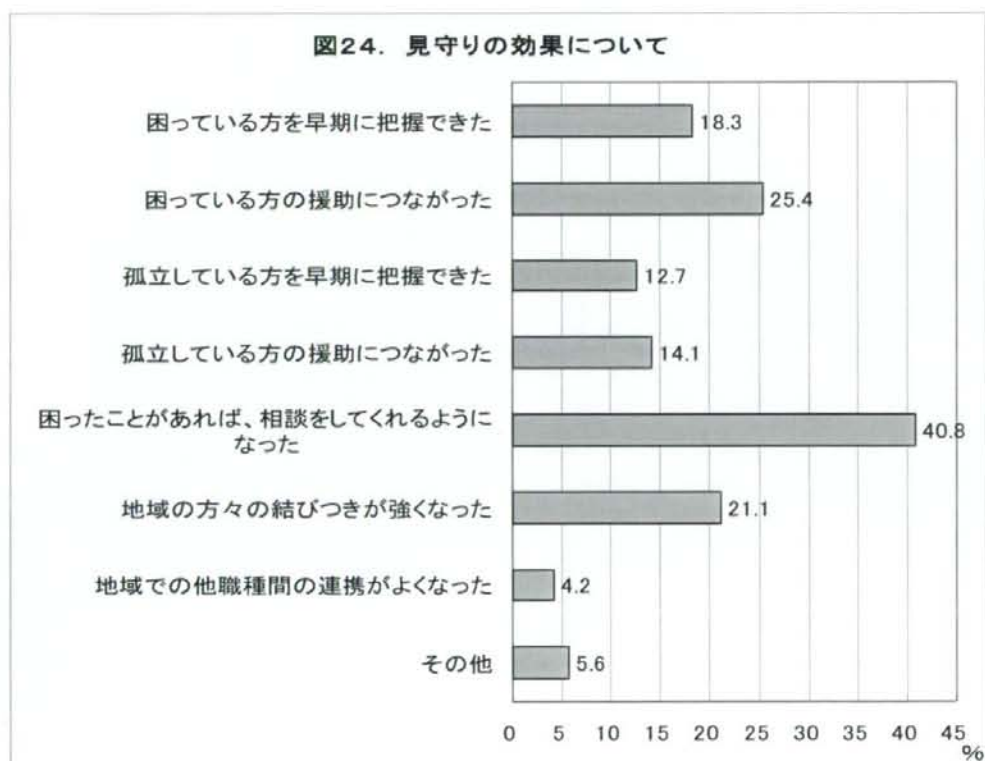
(8)見守りの効果

見守りの効果を項目別にみると(表17、図24)、見守りが次の援助につながったり、早期把握、地域の結びつき・連携に影響していると回答されている。

表17. 見守りの効果について(複数回答)

内容	人数	%
困っている方を早期に把握できた	13	18.3
困っている方の援助につながった	18	25.4
孤立している方を早期に把握できた	9	12.7
孤立している方の援助につながった	10	14.1
困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった	29	40.8
地域の方々の結びつきが強くなった	15	21.1
地域での他職種間の連携がよくなった	3	4.2
その他	4	5.6

図24. 見守りの効果について



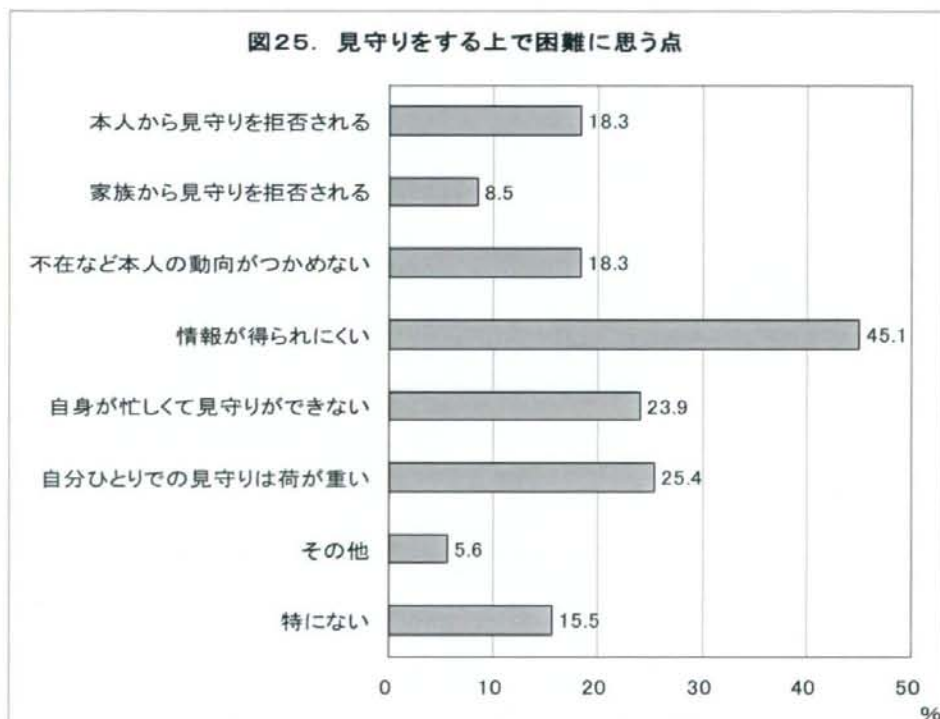
(9)見守りの困難な点

見守りの困難な点は、情報が得られにくい、不在など本人の動向がつかめない、という見守り対象の状況がわからないという点と、自分ひとりでの見守りは荷が重いという点、本人や家族から見守りを拒否される点があげられた。(表 18、図 25)

表18. 見守りをする上で困難に思う点(複数回答)

内容	人数	%
本人から見守りを拒否される	13	18.3
家族から見守りを拒否される	6	8.5
不在など本人の動向がつかめない	13	18.3
情報が得られにくい	32	45.1
自身が忙しくて見守りができない	17	23.9
自分ひとりでの見守りは荷が重い	18	25.4
その他	4	5.6
特になし	11	15.5

図25. 見守りをする上で困難に思う点



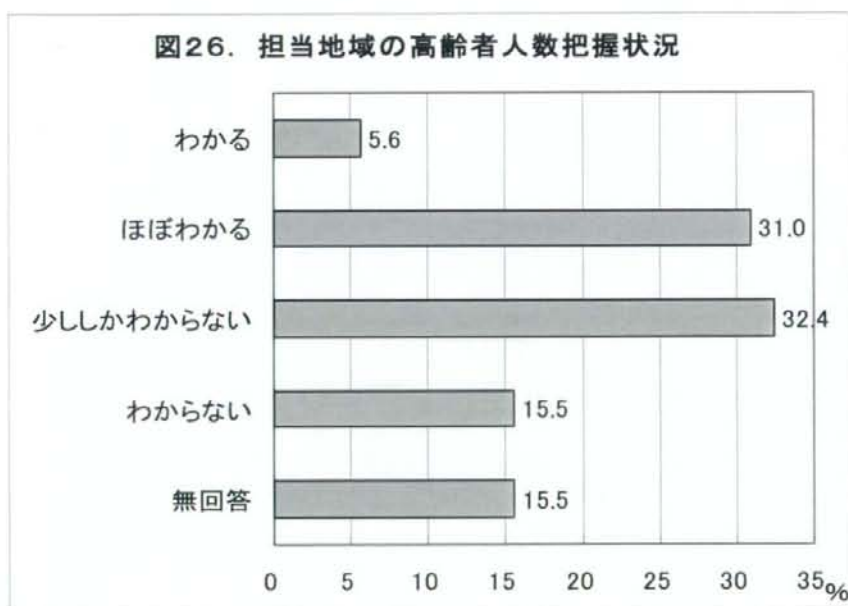
(10) 担当地区の高齢者の人数の把握の有無

担当地区に住んでいる高齢者の人数把握についてみると(表19、図26)、「わかる」が4人(5.6%)、「ほぼわかる」が22人(31.0%)で、この二項目で4割弱を占めており、また、「少ししかわからない」が23人(32.4%)、「わからない」が11人(15.5%)で、この二項目で5割弱を占めている。

表19. 担当地域に住んでいる高齢者人数を把握しているか

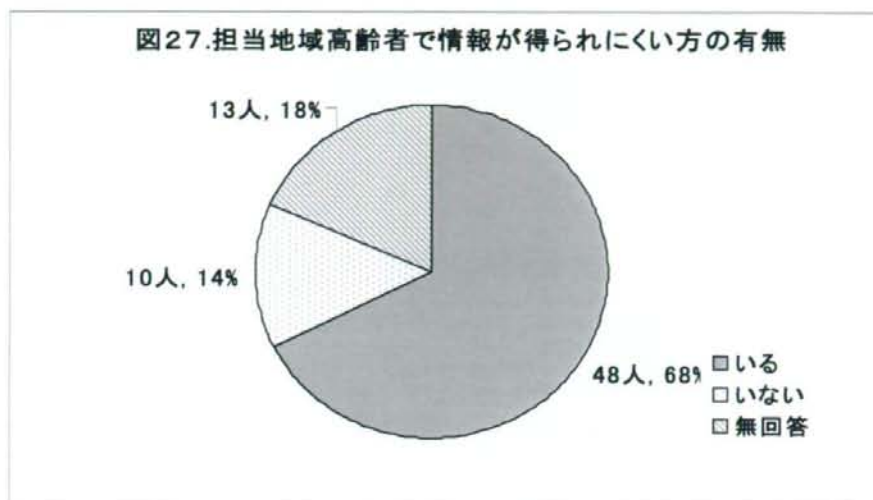
	人数	%
わかる	4	5.6
ほぼわかる	22	31.0
少ししかわからない	23	32.4
わからない	11	15.5
無回答	11	15.5
合計	71	100.0

図26. 担当地域の高齢者人数把握状況



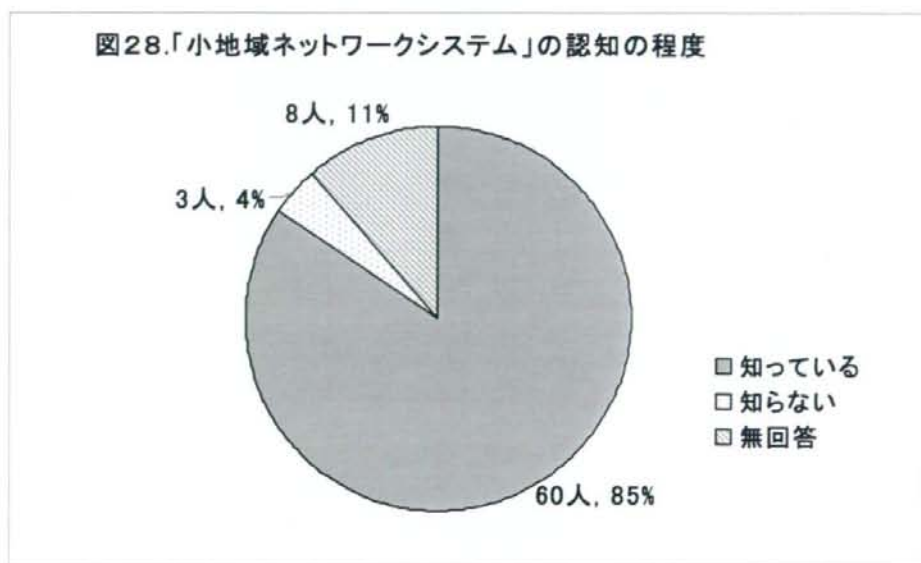
(11)担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無

担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無をみると(図27)、「いる」と答えたものが48人(68%)、「いない」と答えたものが10人(14%)、無回答が13人(18%)で、7割弱がいと回答していた。



(12)小地域ネットワークシステムの認知の程度

小地域ネットワーク「高齢者のふれあい・世代間交流・子育てサロン・個別援助」システムの認知の程度は、約85%が知っていると回答していた(図28)。



(13)小地域ネットワークシステムの活用程度

小地域ネットワーク「高齢者のふれあい・世代間交流・子育てサロン・個別援助」システムの活用程度は、約69%が活用していると回答していた(図29)。

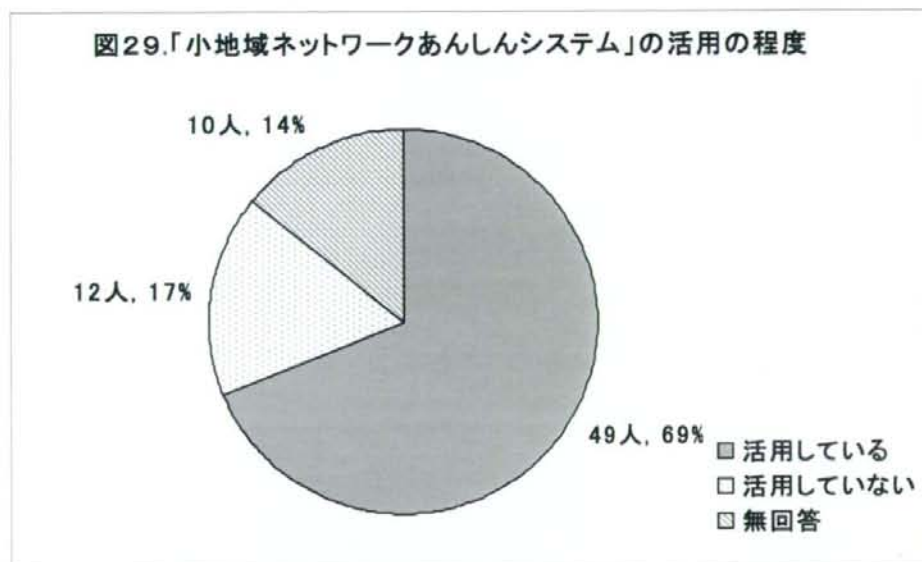


表20-1. 見守り活動についての意見

● 現在行っていること、見守りの良い点、

- ・ システム作り 地域と行政を含めた組織作り。
- ・ いきいきサロン 連合老人会のカラオケの世話。
- ・ 民生委員・小地域ネットワーク・高齢者クラブ・単位自治会・単位町会の組織での情報交換が上手くできるようなネットワークづくり。
- ・ 現在自治会・老人会と共に町内のネットワークづくりを模索中。
- ・ 65歳以上が大半で高齢者も多く見守り活動が大切に「なり、地域の協力で孤独死をなくそう協力して頑張っている。
- ・ 高齢者で身近に子供がいない人は緊急時など近隣者がたより、たよれる人がいるとありがたいと思う。
- ・ 外出時には声かけて「家に来て下さい」「電話下さい」など伝えている。
先方がアクションをおこした時に対応できるようにしている。

● 見守りで難点に思うこと、協力体制について

- ・ 各単位の役員にお願いするのはだめ 見回り活動専門の人が必要。
小地域ネットワーク活動の盛んな地域だが、各活動の参加者・高齢者はほぼ決まっている。
 - ・ 見守り活動の活性化は町会単位の活動が基本と考える。町会役員が毎年決まってくる現状を改めることが急務。
 - ・ 会未加入で交流を断る独居者や見守り拒否の方など自身だけでは活動困難例あり、役所主導で動いたらスムーズにいくのでは思う。
 - ・ 精神的疾患の対応が難しく、保健センターや在宅看護の担当者に意見をもらって協力してもらっているが、気軽に相談できる体制を準備して欲しい。感情的な部分でよくなって落ち着いてきたので喜びを感じることもある。
 - ・ 男性なので訪問しにくい。
-

表20-2. (つづき)見守り活動についての意見

● 見守りで難点に思うこと、協力体制について

- ・ たくさん見守り活動する人がいればいいが無理と思うときがある
- ・ 府営住宅への転居で要援護対象者かわからない。高齢者がいるので見守り活動にむすびつけられない。
- ・ 見守り必要者を発見できているか 男性の一人住まいはた訪ねにくい。
- ・ 地域活動も忙しいため力をいれることができない。
- ・ 積極的な見守り・距離をおいた見守りを行えるよう努めているが自身でおせっかいかと気になる。
- ・ 見守りを拒否する人がいる 友人が多い人は情報があり助かる。
- ・ 地域自治会などと連携をとり、住民と協力して独居老人の把握ができればと思っている。
- ・ 見守り活動は住区での要求に基づくサークルなどあらゆる形で行うことが前提では？
ひとの世話にならないと考えている人も多い。

● 個人情報保護の問題について

- ・ 最近個人情報保護で他人のことには口を出さない知らせない人が多くなり、情報を流すと悪い気がして言いそびれてしまう。
- ・ 個人情報が得られた時、どこまで踏み込んでいいかが難しい。

● その他

- ・ 普段から近所付き合いが大切ということをPRしては？
 - ・ 一人二人でできることではない 多数が手分けしてやることだ。
-